

高等学校地理歴史科（地理）採点基準

2枚のうち1

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 [例]	採点上の注意	配点
①	1 (イ) 2 (イ) 3 (エ) 4 カ 5 ドイツは、第二次世界大戦後、アメリカ合衆国、イギリス、フランス、ソ連の4か国に分割占領され、ベルリンも同様に分割管理下におかれていが、1948年に西側占領地区の通貨改革をめぐり対立したため。		4 5 5 5 6
	1 エ 2 ア 3 (イ) 4 匈奴 5 中国の皇帝を中心とした秩序の中に位置付けようとしたため。		5 4 5 5 6
	1 東海 2 ウ 3 エ 4 仏教のもつ鎮護国家の思想によって国家の安定をはかろうとしたため。 5 IV→II→I→III		4 5 5 6 5
	1 (ウ) 2 桂園時代 3 エ 4 石炭の生産量が1946年まで減少しているのは、第二次世界大戦による荒廃で極度の不振に陥ったためであり、その後、増加しているのは、石炭・鉄鋼などの重要産業部門に資材と資金を集中する傾斜生産方式が採用され、生産回復の基盤が与えられたため。 5 (ウ)		4 5 5 6 5
	1 エ 2 オ 3 オ 4 イ 5 大陸西岸にある都市aは偏西風と暖流である北大西洋海流の影響で気温の年較差が小さいのに対し、大陸東岸にある都市eは夏季に海洋、冬季に大陸からの季節風の影響で気温の年較差が大きい。		4 5 5 5 6
⑥	1 輸入代替 2 エ 3 イ 4 グラフからは、1990年から2010年にかけて乗用車1台当たり人口は減少し、自動車生産台数が伸びていることが分かる。その要因として、インドの低賃金の労働力と大きな消費市場を求めて、資料のように日本などの多国籍企業が進出したことが考えられる。		5 5 5 10

高等学校地理歴史科（地理）採点基準

2枚のうち2

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 [例]	採 点 上 の 注 意	配 点																																																		
7	生徒の特性や学校所在地の事情等を考慮し、地域調査を実施し、その方法が身に付くよう工夫すること。その際、これまでの学習成果を活用すること。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なっていてもよい。	10																																																		
8	現代世界の中で地球規模で進行している自然環境の悪化あるいは破壊に起因する地球の温暖化やオゾン層の破壊、酸性雨、森林の減少、砂漠化などの問題について、そうした問題を詳細にとらえるのではなく、世界的視野といった空間的な広がりに留意して概観せよ。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なっていてもよい。	10																																																		
1	グラフ	<p>(人)</p> <table border="1"> <caption>Data extracted from the graph</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>韓国</th> <th>スウェーデン</th> <th>日本</th> <th>フランス</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1970</td><td>4.5</td><td>2.0</td><td>2.0</td><td>2.5</td></tr> <tr><td>1975</td><td>3.5</td><td>2.0</td><td>2.0</td><td>2.0</td></tr> <tr><td>1980</td><td>2.5</td><td>1.8</td><td>1.8</td><td>1.8</td></tr> <tr><td>1985</td><td>2.0</td><td>1.8</td><td>1.8</td><td>1.8</td></tr> <tr><td>1990</td><td>1.8</td><td>1.8</td><td>1.8</td><td>1.8</td></tr> <tr><td>1995</td><td>1.5</td><td>1.8</td><td>1.8</td><td>1.8</td></tr> <tr><td>2000</td><td>1.5</td><td>1.8</td><td>1.8</td><td>1.8</td></tr> <tr><td>2005</td><td>1.0</td><td>1.8</td><td>1.5</td><td>1.8</td></tr> <tr><td>2010</td><td>1.0</td><td>1.8</td><td>1.5</td><td>1.8</td></tr> </tbody> </table>	年	韓国	スウェーデン	日本	フランス	1970	4.5	2.0	2.0	2.5	1975	3.5	2.0	2.0	2.0	1980	2.5	1.8	1.8	1.8	1985	2.0	1.8	1.8	1.8	1990	1.8	1.8	1.8	1.8	1995	1.5	1.8	1.8	1.8	2000	1.5	1.8	1.8	1.8	2005	1.0	1.8	1.5	1.8	2010	1.0	1.8	1.5	1.8	各5×2
年	韓国	スウェーデン	日本	フランス																																																	
1970	4.5	2.0	2.0	2.5																																																	
1975	3.5	2.0	2.0	2.0																																																	
1980	2.5	1.8	1.8	1.8																																																	
1985	2.0	1.8	1.8	1.8																																																	
1990	1.8	1.8	1.8	1.8																																																	
1995	1.5	1.8	1.8	1.8																																																	
2000	1.5	1.8	1.8	1.8																																																	
2005	1.0	1.8	1.5	1.8																																																	
2010	1.0	1.8	1.5	1.8																																																	
9	特 徴	先進国の合計特殊出生率は減少傾向にあるが、スウェーデンとフランスは、先進国で人口を維持する目安となる人口置換水準である2.1に近づいているのに対して、韓国と日本はその値よりかなり低いものとなるという違いがある。	30																																																		
2	内 容	<p>日本は合計特殊出生率が減少しており、子供を持つ親が安心して働ける環境を整備する必要がある。</p> <p>図2をグラフでかくと、スウェーデンとフランスは、女性の社会進出が進む台形型であることにに対して、日本は女性の社会進出が遅れていることを示すM字カープがえがかれる。</p> <p>図1と図2から、フランスやスウェーデンでは、女性の社会進出が進み合計特殊出生率も安定している国であることが分かり、日本も女性の社会進出を進めればよいように見える。しかし、図3から、日本のM字カープは台形型に近づいていることから、女性の社会進出を進めるだけでは説明できないことが分かる。</p> <p>フランスやスウェーデンで合計特殊出生率が回復しているのは、女性の社会進出が様々な子育て支援制度に裏付けられていることにより環境が整えられていることによる。</p>	15																																																		
	發 問	日本では、女性の年齢階級別労働力率のグラフは台形型に近づいているのに、日本の合計特殊出生率は下がり続けています。フランスやスウェーデンの合計特殊出生率が安定しているのはなぜですか。	5																																																		